

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	《委託研究Ⅰ》 【豊中市立第四中学校】 ・学習指導に関すること ・生徒指導に関すること
調査研究のねらい	【豊中市立第四中学校】 様々な年齢層や国籍の生徒が在籍しており、中学校を卒業したが履修内容の学びなおしを希望する生徒、高等学校への進学を希望する生徒も増えてきている。また、若い世代の新渡日生徒の割合が増え、生活習慣等の違いによりお互いを理解し、良好な人間関係を構築することが難しい現状がある。 そのため、学習言語としての日本語能力の低い生徒や学習の定着が困難な高齢の生徒に対する個に応じた教科指導と学校教育におけるすべての場面で、人権を基盤とした教育の推進が課題であると考えている。 そこで、国語・数学におけるきめ細かな指導方法の工夫改善、コミュニケーション力を高め、良好な人間関係を築くためのカリキュラム及びコース編成について研究するとともに、総合的な学習の時間等における生徒の自尊感情を高める取組みについて研究し、生徒一人ひとりが安心して学べる夜間学級を目指す。

調査研究の成果

【豊中市立第四中学校】

○国語・数学に関する系統的な教科指導の研究

○学習諸活動における生徒理解

習熟度別学習に取り組むことで生徒の学習に対する意欲を高めるため、生徒一人ひとりの学習能力や生徒の思いを把握するために小テストや面談を実施し、体験授業期間を設けコースを決定した。

国語は、日本語でのコミュニケーションに課題がある新渡日生徒を中心に初級文法を学ぶAコースから、中学校国語の内容及びその発展的な内容までも網羅するDコースまで、4コースの習熟度別での授業を展開し、複数の生徒の中でコミュニケーションを取りながら学ぶことができた。特に、Aコースでは、コース内での日本語力の差が激しいため、複数の教職員が個別対応する時間も設け、わかった・できたと実感できる授業を展開した。

また、とよなか国際交流協会との連携を密にすることで、年々変化していく生徒の国籍や年齢構成に、よりの確に対応することができ、外国籍生徒の実態を踏まえた授業づくり等にとても役立った。

数学は、1桁の足し算・引き算を学ぶコースから中学校数学の教科書にある内容を学ぶコースまで、習熟度別の3つのコースを設定し、きめ細かい指導を行うことで学習の定着が図れた。

国語・数学とも生徒の実態に応じた年度途中でのコース変更など柔軟に対応するとともに、習熟度別に分かれたコースでのチームティーチングを実施することにより、生徒の実態に合わせたよりきめ細かい指導を行うことができ、学習の定着を図れた。

さらに、年間を通じて、相互の授業を見学し、批評し合う等の授業交流が、教職員一人ひとりの授業力向上に効果があり、きめ細かな指導方法について、さらに工夫・改善を加え、より生徒の実態に即した教科指導の在り方を研究することができた。

学習教材では、個々の生徒の生活実態に即した日常生活に活かせる内容を大切に、生徒が達成感を得られるような教材作成を工夫したことにより、学校で学んだことが、日々の生活の中で役立っていることが実感でき、学習意欲を向上させるとと

もに、学習内容を定着させることができた。

学習したことが定着するとともに、生徒の学習意欲が向上し、自ら高い目標に取り組む姿が見られるようになった。

学び、生きること自信をつけた生徒は、生徒間や教職員との良好な人間関係を構築することができるようになり、極めて大きい成果を得ることができた。

### ○コミュニケーション力向上のための指導の研究

授業開始前や30分間の休憩時間には、できるだけ教職員も生徒とともに時間を過ごす中で、生徒の状況を把握し、生徒どうしをつなぐ会話を心がけた。

授業では、家庭科で調理実習を行い、食材の購入にも生徒が加わった。料理の得意な生徒は生き生きと授業に参加し、お互いに協力しながら、とてもいい雰囲気の中で授業を行うことができた。

夏休み中の公民館での作品展や、3学期の校内作品展では、油絵や編み物、習字など各教科での授業作品を展示した。制作の過程では集中して作品づくりに取り組むとともに、教師の支援のもと、自分の作品が少しずつ目指すものになっていくことに大きな達成感が見られた。

国語・数学・理科・美術・技術家庭等での成果を広く一般にも周知する機会となり、周りからの評価を受けることで、生徒が達成感を味わい、さらなる学習意欲の向上へとつなげることができた。

11月の総合学習発表会では、国語のコース別に日頃の学習の成果を発表した。朗読劇や合唱の練習を通じて、お互いを知り、評価をすることができ、一人ひとりの自信につながった。

日常の会話や、授業中にみんなで話し合いながら何時間も、何日もかけて一つの作品に取り組んだり、お互いにいたわりながら体育で体を動かしたり、自分で考えや意見を出し合い、共同作品を作り上げたりする中で、人のことを思いやり、一つのことに集中する根気が生まれ、自分に自信が持てるようになるとともに、コミュニケーション力を高めることができた。

また、昼間部の児童・生徒との交流を積極的に行うことで、夜間学級生徒の自己肯定感を高めるとともに、昼間部の児童・生徒にとって、学ぶことの意義を伝えることができた。

	<p>2016年 7月 7日 豊中市立第四中学校 1年生との交流 7月 25日～29日 作品展(庄内公民館) 8月 17日 昼と夜の教職員交流研修 10月 7日 学習旅行(琵琶湖博物館等) 11月 17日 総合学習発表会 12月 16日 豊中市立中豊島小学校との交流</p> <p>2017年 1月 26日 27日 校内作品展 2月 6日 豊中市立第五中学校との交流 2月 12日 近畿夜間中学校連合作品展 2月 16日 豊中市立第四中学校生徒会との交流</p>
--	---